

いろいろな道具



糸巻き

さまざまな生活の道具

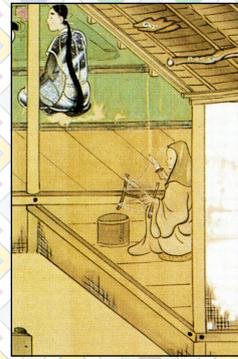
柳之御所遺跡をはじめ平泉では、当時使われていた多数の道具類が出土しています。材質は木、鉄、石など、その種類も、日常生活に使われた道具、仕事や遊びに使われた道具、生産に使われた道具など多種多様なものが見つっています。

木製品では、杓子、箆などの調理具や箸・椀などの飲食具などが、豊富に出土しています。トイレットペーパーの機能をもったちゅう木と呼ばれる割材も多量に出土しています。材質は杉の薄い板材を加工したものが多く、中には折敷などからリサイクルされたものもあります。多くは材を割ただけの簡素なものですが、端部を切り落として調整するなど加工しているものもあります。生活の道具では下駄も出土しており、一木作りの連歯式と歯を差した差歯式があります。すり減ったものもあり、使用のようすがうかがえます。

仕事の道具

このほかに政治の中心にふさわしく、紙(漆紙)、筆先、硯、物差しなどの文具も出土しています。銅製の印章が出土していることから、遺跡内で行政にかかわる仕事が行われていたことがわかります。また、遊戯具として、碁、将棋の駒、碁石、木トンプオなどが出土しており、当時この場所が、行政などの仕事の場だけではなくたことがわかります。生産に関わるものでは、糸巻きや御簾錘、漆塗りのパレットや刷毛が出土しています。糸巻きは特に多く出土し、現在と形態がほとんど変わりません。

石製品では文具の硯のほか、カイロのように使った温石や、石鍋なども出土しています。これらは産地の限られる滑石製のもので、生活のようすとともに交易の実態も示す資料です。鉄製品も武具や馬具が出土しています。



糸を紡ぐ様子
『春日権現験記絵』より



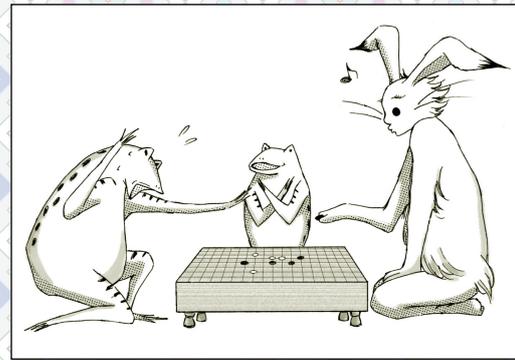
ちゅう木を使っている
子ども『餓鬼草紙』より
Image: TNM Image Archives



ちゅう木



遊戯具



鏡

松双鶴鏡は2羽の鶴が飛んでいる周りに松が配されています。また、周囲には蝶も飛んでいます。

直径は11.5cm、重量が264gです。この文様の表現は京都などでみられるものとはやや異なるものです。平泉では志羅山遺跡で鏡の鋳型が見つっていることもあり、平泉で生産された可能性も指摘されています。この鏡は柳之御所遺跡の井戸跡の底面近くから出土したもので、井戸が廃される時に何らかの儀式に用いたとも考えられます。

この鏡のほかに八稜鏡と呼ばれる8つ端部に稜がつくものも出土しています。また、町内でも何枚か出土していますが、完形のものはいくつか貴重な資料です。



松双鶴鏡